

清水寺

清水寺は真言宗の寺であり、遡ること 16 世紀後半より始まった石見銀山の歴史において大いに目立つ存在でした。清水寺は周囲に銀脈の広がる仙ノ山の山腹に元々は位置していて、武将たちからも平民たちからも崇敬の念を集めていました。石見銀山で最も豊かな銀脈の 1 つを発見した探鉱者である安原伝兵衛が、1602 年に主脈にたどり着く前にお祈りをした場所が清水寺であったと言われています。将軍徳川家康（1543-1616）から安原が幕府の財源へと貢献したことへの褒美として受け取った華美な羽織は清水寺へと寄付されました。羽織は今でも寺の所有物ではありますが、現在は京都国立博物館にて保管されています。

清水寺は現在の位置に 1878 年に移転され、その敷地に既にあった仏教の寺は清水寺の本堂として新たに使用されることとなりました。本堂では 11 の頭を持つ慈悲深い菩薩である十一面観音の金箔像を保存しており、格子状の天井は清水寺へと寄付をした武士や商人たちの家紋で飾られています。清水寺の現在の正門は 1931 年に付け加えられたもので、廃れてしまった寺から移されたものです。その寺はかつて石見銀山における主要な神道の神社である佐毘売山神社を管理する寺でもありました。正門は一對の石像によって守られています。右側には五台明王の 1 尊であり、悪魔やその他の仏教の敵へとその怒りをいつでも解き放てるよう用意している不動明王が、左側には四天王の中でも最高位を占め、強力な守護神である毘沙門天が立っています。